

関西

学友会



2006

ロータリー米山奨学生学友会(関西)
創立20周年記念



Rotary Yoneyama Scholarship Alumni Association

22

ロータリー米山奨学生学友会（関西）は関西地区に居住する
米山奨学生OB及び現役奨学生の同窓会です。

目 次

生かされている今に感謝	林 小微	P. 2
創立20周年をお祝いして	島津 久厚	P. 3
米山を通じ心の友に	近藤 雅臣	P. 3
生きること、生きる	神崎 茂	P. 4
寒椿	山本 和雄	P. 5
創立20周年おめでとう	北川 哲	P. 5
生きる楽しみor生きる重要性	朝比須峯子	P. 6
20周年によせて	磯田 郁子	P. 7

ロータリー米山奨学生学友会（関西）創立20周年記念 特別講演及び原稿寄せ

明日へ生きる	唐澤 清司	P. 8
異文化コミュニケーション	磯田 郁子	P. 8
受けるより与える方が幸福である	山岡 由佳	P. 9
プロジェクトY-米山学友会（関西）創立20周年にあたって	陳 麗華	P. 10

2005年度のテーマ「異文化コミュニケーション」 or「最近思うこと」

其 其 格	P. 11
ラミ・ダラバド・ロパス	P. 12
張 南雁	P. 13
陳 贊	P. 13
ザラガムジ	P. 14
趙 柏飛	P. 15

社会奉仕活動報告	P. 16
2005年度活動写真	P. 17
2005年度米山奨学生学友会（関西）役員名簿	P. 18
2005年度会計収支決算報告書	P. 19
2005年度会計予算（案）	P. 20
2005年度会員名簿	P. 21
相談コーナー	P. 22
2005年度活動報告	P. 22
会報広告依頼	P. 23
会員の消息	P. 24
編集後記	P. 24

生かされている今に感謝

会長代理兼幹事長

林 小微

(和歌山東RC)



ロータリー米山奨学生学友会（関西）は1986年に設立し、1987年に会報が発刊され、今年は設立20周年を迎えることができました。これもひとえに財団法人ロータリー米山記念奨学会、地区ガバナーを始め、米山奨学委員会のロータリアンの方々のご指導、学友諸先輩方のご奉仕、学友の皆さんのご協力があったからこそだと思っています。あらためて皆様方に心から感謝いたします。本会は元米山奨学生、現奨学生間の交流を通じ親睦及び互助を促進すると共に国際親善・世界平和に寄与することが目的であります。2005年度の統計ではロータリー米山記念奨学会が1957年から援助してきた私費留学生の数は12706名、そのうち2660地区では652名の奨学生がお世話になってきました。そして現在、関西に在住、在学している本会所属の学友は250名です。この50年近く多くの国からの私費留学生を応援してこられました。本当に一言では感謝の気持ちを言い尽くせないことです。

私事で恐縮ですが2004年6月14日早朝、運動のために公園へ向う途中の交差点で交通事故に遭い、右足首の複雑骨折という大怪我を負いました。それから3ヶ月の入院生活で色々なことについて考えさせられました。毎日自分の足にご苦労様と話しかけ、感謝の気持ちで足を拭いていました。人間はもともと生かされていることを忘れかけていました。入院生活を経て、やっと今の自分が生かされていることへ感謝し、これから自分をちゃんと見つめてテンポを緩めようと思い、立ち止って周りを見て、考えるのも悪くないと思いました。十数年前に始めたボランティアもちょうど近くに児童養護施設があり、自分にも気分転換がほしいと思い、通わせていただきました。自分にもいい人生勉強になり、一石二鳥と自己満足しております。

しかし、もっと何か楽しいことがないかと次のものを探す自分がいて、今まで社会の歯車に遅れないようにしようと仕事に没頭し、色んなことに挑戦し、前へと前へと急いできた気がします。今

回のことで自分の人生を再認識し、生き残った今、人様の為にこれから何かできるかと模索しております。どう生きるのか、人々の生きざまを観察して、自分も楽しく、人にも喜んでもらえることは何かと考えながらいきたいと思えます。

奨学生の皆さんも日本に来られて、学業だけの勉強ばかりではなく、社会奉仕活動を通じて社会の仕組みやさまざまな問題への対処の仕方も勉強をしていただければ、いつか自分の人生の中でプラスになることと信じております。

中国の諺には『齊家、治國、平天下』というのがあります。すなわち、家が平和でちゃんとしていれば国もちゃんと統治ができる、そうすれば世界が平和になる。今、いろんな国で平和になっていません、私達が少しでも親睦の輪を広げていければ世界がもう少し平和になってくれるでしょう。

これからどう生きるのか私にとっては一番大きいテーマです。学友会が二十周年つまりは成人式を迎えた今、学友会をしっかりとまとめていかなくてはと考えています。地区でお世話になった元奨学生をネットワーク化できれば、遠くに離れていた元奨学生を通じて日本の真の心が世界各地にいきわたるでしょう。社会奉仕活動は私に癒しを与えてくれています。そして私の仕事にも役に立っていると思います。これからも思いやりと尊重をもって全ての事を対処していきたいと思えます。



創立20周年をお祝いして

ロータリー米山記念奨学会理事長
島津 久厚



米山奨学生学友会（関西）が設立20周年を迎えられたことをお祝い申し上げます。又、この間の素晴らしいご活躍に敬意を表する次第です。

米山奨学生の学友は既に12,000人を超えています。元来、米山奨学生になる資格は学業に優れていることと共に、異文化に対する理解に努めることの出来る人、更にコミュニケーション能力を持つ人であることが条件になっています。

従って奨学生を終了されて社会に出られた方々はそれぞれの母国、日本、あるいはその他世界の多くの国の社会、職場で、それに相応しい尊敬を受けられながら活躍され、国際理解に貢献しておられるのでありまして、そのお姿を見たり、聞いたりすることが出来ることは本当に嬉しいことでありますし、学友の方々も米山奨学生であられたことを誇りに思ってくれば有難いと思うものであります。

米山奨学事業を支援してこられた日本のロータリーも皆様方の活躍ぶりを心から喜んでおられると思います。

米山奨学事業は日本に留学しておられる留学生に対する民間の支援事業としては、一番規模が大きいのではないかとされていますし、世話クラブやカウンセラーの制度も誇るに足るものかと思えます。無論、総てが満点ではありませんし、改善すべき点もあることは自覚していますので多くの方々の意見を参考にしながら改革しつつある現状です。

米山奨学生学友会（関西）は日本国内にある学友会としては先達のな会であられますし、今後も大いにご活躍頂いて、皆様相互の親睦研鑽に貢献されますと共に米山奨学会も御声援くださることを願って祝辞とさせていただきます。

米山を通じ心の友に

米山記念奨学会理事 RID2660 PG
近藤 雅臣



同窓会創立20周年おめでとうございます。ホームページも新しくなり、今後の発展が期待され喜びを禁じ得ません。先日2770地区の地区大会に参加する機会を得、その行事の中で米山をサポートしてきてよかったと感動した場面がありました。それは、ミャンマーからの奨学生タンザン君が素晴らしいスピーチをしてくれたからです。彼は奨学制度に心から感謝し、埼玉大学での勉学の努力と成果について報告し、また、その奨学金の中から節約して貧しい後輩に送金していることなど切々と語ってくれました。また、その後のメール

で、日本でしっかり勉強して故国にかえり故国の発展のために全力を尽くしたいと伝えてくれました。僅かな奨学金しか差し上げられないのにその中から貧しい人と分かち合う暖かい思いやり、そして、感謝とともに将来への意気込みを知らせてくれたことは私どもにとってこんなに嬉しいことはなく、奉仕の心を更にかきたてられました。その時の私のスピーチの最後に「奉仕から得られるものは感動である」と結んだことを聴衆は実感してくれたものと思っています。私どもロータリーは、日本で創立され日本独自の奨学制度として

奉仕してきた米山奨学制度をより良いものにすべく今後も改革を続けたいと思っています。ご承知のとおり来年度から現地採用型の奨学制度が発足します。日本にきて勉強したいが、経済的にも、チャンスにも恵まれない若人が沢山おられると思います。多くのロータリアンはこのような人たちを一人でも多く日本に招くことができると願っています。ただ、私たちロータリアンは奨学生の

皆さんから私たちの心に感動を与えてさえ頂ければ良いのです。もちろんその前に、私たちロータリアンがまず奨学生の皆さんに心温かく接することが大切であることはいまでもありません。お互いに知り合えたことに対する感謝を通じて理解し合い、末永く心の通じる温かい仲間でありたいものです。そして、それが国と国が理解し合える基礎となり、世界平和に繋がって欲しいものです。

「生きること、生きる・・・」

RI2660地区 ガバナーエレクト
神崎 茂



人間生まれた以上、生きてゆくべきものです。他の生き物と同じように自然に生き続けなければなりません。自分の意思で生まれてきた人は一人もおりません。誰もが生かされて生きているのです。そして、人間一人だけで生きられません。みんなが助けあって生きてゆくべきものです。give and takeの精神です。個性やアイデンティティが言われる時代ですが、普通の人間として人間らしく、普通の人間のできることをして生きてゆけば良いと思います。無理をすることはありません。

ロータリークラブは100年の歴史の中で社会奉仕と職業奉仕の二本柱を大切にしてきました。それは社会や人々の役に立つことを実践しようとする事と、それぞれの職業生活の中で世のため、人のために貢献しようという精神です。これらは「Service above self」「He profits most who serves best」という長年親しんでいるモットーの中で表現されています。

「四つのテスト The Four way test」は1932年以来、今日までロータリーの理念を解り易く表現

した標語として大事に守られてきました。

四つのテスト

言行はこれに照らして

1) 真実かどうか

2) みんなに公平か

3) 好意と友情を深めるか

4) みんなのためになるかどうか

ハーバート・テラーが倒産した会社を再建する際に考えついたことで、この方針で見事会社を成功させた話に由来しています。個人としての生き方を考える場合にも、この四つのテストは大変役立つと思います。

みなさんは外国人留学生として日本に来て、米山奨学生として選ばれた優れた人達です。日本人や日本の国の良い所を見つけていただきたいと思っています。そして、世界の平和に貢献できるような生き方をして、日本とそれぞれのみなさんの祖国との間の架け橋となっていただくよう願っています。



寒 椿

ロータリー第2660地区 米山奨学委員長
山本 和雄



日本には、「10年ひと昔」とも言い又、10があり、過去を顧みての反省と次なる10年への飛躍を期する大切な節目を意味しています。

まずもって、20周年おめでとうございます。今日ここに至るまで、取り巻く環境、就中文化、民族・信条の異なる中で、コミュニケーション構築のむずかしさを、運営いただいている皆様には、表現のしがたい程の御苦労いただいている事と充分存じております。

2660地区の活動計画のひとつに「学友会のネットワーク作り（追跡調査）」がありますが、学友会の会長・幹事以下皆様が良く理解と協力を頂き、これが米山月間前にほぼ完成し、各クラブに卓話の時間を頂きながら、これの活用方法についてお願い申し上げ続けて来ました。

一度結ばれた御縁（えにし）がそれぞれの生活環境の変化で絶え、そのまま棄ておくのではなく、私達ロータリアンが「太陽が輝いているのに日向が顔をむけない筈がない」――と頭の中で反芻しながら「クラブ週報」を送り続ける事が

再び心の温もりを感じあえる日が必ずある筈です。「桜」は日本を代表する花で日本各地にその名所があり、それぞれの風情をたたえ人の心を豊かにしてくれます。そんな4月が好きですが、しかし私は雪深き野辺の寒さ、凍れる吹雪の中で、けなげにも誰の為にでもなく赫（かく）とあざやかに咲いている1本の寒椿が一番好きです。1度しかない自分の一生の中でただ、漠然と生をむさぼり続ける事は、生への冒涇ではなからうかと、1本の寒椿に教えられるからです。

今、世界の中では色々な問題を色々な地区で担ってはおりますが、生まれ来て、そしてお互いに知り合い握手出来る幸せに感謝しながら「人の幸せのために私に 何が出来るのか？」と問いながら自分なりに一隅を照らし続ける事が、やがては民族が異なろうとも正しい歴史認識が出来、そして共有できるのではなからうかと「そよ」と咲く1本の寒椿から勇気を頂いている今日この頃です。

創立20周年おめでとう

ロータリー第2660地区 米山奨学副委員長
北川 哲



私は年間多く海外に出る機会があります。その多くは外国への興味の海外旅行なのですが、少しでも時間が出来れば国内よりも海外に出る様にしています。

どうしてそんなに頻繁に海外に行くのかとよく聞かれます。「海外に行くと楽しいから」が偽らざる私の返答です。

海外での異文化に触れ、習慣や作法に戸惑い、訪問した国々の人々や国に違和感を覚える時、

「どうして?」「なぜ?」と自分にその疑問を投げかけます。知識として持っていた国とは違っていた、自分の想像していた国ではなかったという事がしばしばあります。「どうして?」「なぜ?」と考える事によってますますその国に興味を湧いてくるのです。

「比較文化」や「文化人類学」の範ちゅうが好きで、自分が直接訪問した国々を自然と検証しているのかも知れません。

この様な思考を国々で思いめぐらせる時、私は「生きる楽しみ」を味わっているのでしょうか。

イタリアのパルマ市を訪れた時、ドイツと戦ったパルチザンの追悼行進の垂れ幕にイタリア語で、大きな字が書かれてあり、何と書かれてあるのか聞きました。「貴方達が今存在する理由は？」と書いてあるとのことでした。おそらく国家に命を捧げた先輩に敬意を表し、今を生きる人達に彼等の業績を思い出させる問いかけだと思いました。その時私自身も「私が存在する理由は？」と問いかけてみた時、日本におい

てはあまり考えない国家と自分自身についての関係について深く思いをめぐらせたのです。

国際親善とは何もその国々の人達と楽しい時間を分かち合う事だけではありません。

ふとした事からその国の人々から自国を思い、自分自身を知り、お互いの国を理解する事ができればそれは立派な国際親善と言う事が出来ると思います。

「生きる楽しみ」は今を生きる事であり、「生きる重要性」は私達が後世に残しえる唯一のメッセージでもあります。

生きる楽しみ or 生きる重要性

ロータリー第2660地区 米山奨学委員

朝比 須峯子



米山学友会（関西）の皆様、創立20周年おめでとうございます。

20年間この記念誌に携わってこられた皆様のご尽力に感謝いたします。

今回のテーマは「生きる楽しみ or 生きる重要性」

これは私にとっても、一生のテーマです。私は数年前、世間で言うところの大病を致しました。本人は全然そんな自覚はなかったんですけどね。それまで、「生きてて当たり前。健康で当たり前。怪我でもした日には何てついてない！」という生活でしたから。そんな傲慢だった私が検査の数値を申し上げたら、きっと皆さん驚かれることと存じます。それくらいの経験を致しました。

しかし、この出来事は私に「生きる意味」を考えるきっかけとなりました。そして、それから多くの方や本、経験を通じて、「生かされている自分」に気づき、私が生きてなすべき役割について考えるようになりました。今では、朝目が覚めるだけで、感謝。「今日も生きてる」夜寝る時も、「ああ、今日も1日無事に過ごすことができました。ありがとうございます。明日も良い日になりますように」って。私が毎日出会う出来事はどんなに小さなことでも、意味があり、決して偶然はない。病気だって、怪我だって、何だって私に何かメッセージを運んできてくださっているんだろうなと思っています。

足を踏まれても、「どうして今この人の足は私の上にあるのかしら」って考えていたら、腹が立たないんです。以前の「瞬間湯沸器」の私をご存知の方だったら、きっとびっくりされることでしょう。「出家でもしたの？」私にとっては、「生きることが喜びであり、生かされていることが重要」なのです。

そんな時に、米山奨学委員会に入れていただき、出会うことのできた米山奨学生・学友の皆さん。皆様に何か私がお役に立てることがきっとあるのだろうと思っています。これは私のみならず委員会の委員あるいはロータリアンの皆様の共通した想いだと思います。

皆さんが日本に来られ、学ばれるということも、きっと何か大きな意味を持っているのでしょう。今の日本を見られた皆さんは驚いておられるのではないのでしょうか。「命」「生きる」ということがとても簡単に扱われています。私たちが目にしたり、耳にしたりするニュースも暗いものが多いのも事実ですが、本当はもっと表に出ない現実もあると思います。日本は今夢を見ることができない社会になっています。

奨学生の皆さんは、大きな夢を持って、日本にお越しになっていると思います。「日本で学んで、祖国に帰って役立てる。まずは、祖国と日本の掛け橋に、そして、世界の掛け橋になる。」米山奨

学生の皆さんにはそういう方が選ばれているとうかがっています。嘗て、あるところで、留学生の方が、「国のため、家族のため、自分は日本で学んで帰る」とお話しおられるのをお聞きし、

「私は我が子にこういった発想を伝えているだろうか。夢を持たせてあげているだろうか」と気付かされ、反省したことがあります。皆さん、日本にいらっしゃる間、日本で縁する方々に皆さんの夢を語ってください。皆さんと触れ合うことで、私のように気付く方もおられるでしょう。忘れていた夢を思い出される方もいらっしゃるかもしれません。あるいは、異文化交流によって、日本の既存の発想とは違う考え方に気づき、活路を見出す方もいらっしゃるかもしれません。それを、私たちは知ることはないかもしれません。でも、社会のどこかでお役に立っている。

これが、多くのロータリアンの皆様の善意の賜物

である奨学金が奨学生の皆さんにだけではなく、日本の社会にも生かされて使われるということではないかと思ひます。そして、奨学生の皆さんが「日本に来てよかった!」と思ひて帰られる、帰られたあと、「日本って良い国だったよ」とあるがままの日本の姿を伝えてくださる。そのお役に立つことが今の米山奨学委員会での私の生きる喜びなんだろうなと思ひ、これからも一緒に活動させていただけたらと思ひております。これからも、30年40年50年と歴史を重ねていかれる時、こんな私でも少しはお役に立ったのかしらと思ひることができれば、幸いです。

「誰かの役に立っている、それが生きることの重要性。そして、それを感じることが出来る、それが生きる楽しみ。」そう定義するとすれば、私はこの米山奨学委員会ですらそれを実感させていただいております。

20周年によせて

磯田 郁子
(大阪東淀RC)



米山奨学会学友会の皆様、創立20周年、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私にご縁があって先日盛大に開催されました創立20周年記念式典で記念講演をさせて頂く機会に恵まれました。そこで私なりの異文化コミュニケーションについてお話しさせて頂きました。

私は独立行政法人日本学生支援機構大阪日本語教育センター(旧・関西国際学友会日本語学校)で皆様のような日本に留学された方々に日本語を教えるという仕事をしています。その仕事を通じて現在まで様々な経験をし、色々な新しい発見をいたしました。そして大袈裟に言えば日本に居ながらにして世界各國の文化や習慣を学ぶことができました。これはこの職業ならではの得られないことであり、非常に感謝すべきことだと感じています。

さて、米山学友会の皆様はある人は20年前、そしてある人は今年、日本に來られ日本での留学生生活をスタートされたわけです。母国や家族を離れ1人で異國の地で生活するということは簡単なことではないでしょう。習慣の違い、考え方の違い

などの壁に何度もぶつかりながらそれをひとつひとつ解決していくことは努力のいることでしょう。そして何より経済的な問題もその壁の1つになることでしょう。日本で学びたいという目的を持って來日された皆様の経済的そして精神的なお手伝いができればと、このロータリー米山奨学会はあるのです。奨学金を受けられた方の多くがいつも「この奨学金のおかげで勉強に専念できました。本当に感謝しています。」とおっしゃった時、私は本当に良かったと感じます。そして何より「日本が好きです。日本に來てよかった。」という言葉聞いた時、胸が熱くなります。

奨学生を終えられて帰国し活躍されている方々、日本で就職している方、企業された方、色々な方がおられるこの学友会はロータリーの財産と言っても過言ではないでしょう。これからもこの学友会がますます発展され、多くの方々が集い、活動できるそんな場になって行かれることを祈念しています。

明日へ生きる

独立行政法人 日本学生支援機構
大阪日本語教育センター
副センター長 唐澤 清司



ロータリー米山奨学生学友会（関西）創立20周年おめでとうございます。

学友会誌22号の寄稿依頼を受け資料を拝見していますと、22年間の会のメンバーの中に数多くのお大阪日本語教育センター（旧関西国際学友会）の卒業生が存在しているのに驚くと共に、大変光栄に感じております。また、来日の外国人留学生在がRI2660地区のロータリーアンの皆様にごこのように多大な恩恵を与えられていることに、心から感謝申し上げます。

尚、今後共にご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

この素晴らしい学友会のメンバーの中には、既に帰国しそれぞれの国の第一線で活躍している方も多くいます。国の政府機関で国際交流の事業や行政・金融関係、また、企業や弁護士事務所で責任のある地位・役職に就いている方々もいます。また、私の学校も数多くの卒業生にお世話をいただいております。

私達日本語学校の日常は、大志を抱き来日する

外国人留学生在に日本語・日本事情を教え理解してもらふこと、悩みごとの相談に乗り共に悩むこと、また、「大志」と学生本人の「力」に相応する進学先を探し、合格してもらふことが仕事であります。したがって、目標を抱き勉学に励む学生に全力で学校を挙げて日本語を教授し、サポートしています。そのことを踏まえ、留學生の方々は国のご家族の期待に応えるべく、さらに上の学府での学問を修め、また、国際親善交流・国際理解の団体RI2660ロータリーの学友会のメンバーとしての自覚をもって勉学をしていらっしゃると思います。この素晴らしい団体の支援を受けられた留學生の皆さん、また、指導のもとでの留學生生活・社会勉強を実践している留學生の皆さんも、このクラブの精神と知識を十分に培い、明るい21世紀を担える人材に成長し、グローバルな視野の下に社会に貢献し、知識の還元をしていただけることを切に願っております。また、ハタチ20周年を迎えた学友会にお祝い申し上げますと共に、さらなる発展・飛躍をご期待いたします。

異文化コミュニケーション

大阪日本語教育センター
磯田 郁子
(大阪東淀RC)



皆様、こんにちは。本日は米山奨学会学友会関西の創立20周年記念式典をこのように盛大に開催されましたことを心よりお喜び申し上げます。

私の職業は日本語教師です。皆様のような日本に來られた留學生に日本語を教える仕事をしています。私は大学を卒業してすぐに関西国際学友会日本語学校という天王寺区にある日本語学校に就職しました。平成16年度からは組織が変わり、独立行政法人日本学生支援機構大阪日本語教育セン

ターという名称に変わりましたが、仕事の内容は同じです。この米山学友会の中にも本校を卒業された方が多くいらっしゃるようでとてもうれしく思います。

この大阪日本語教育センターには現在約400名、36カ国の留學生が在籍しています。学生達は4月か10月に入学し、1年ないしは1年半本校で日本語を勉強した後、ほとんどの学生は大学や大学院、専門学校に進学していきます。この中には文部科

学省の国費留学生も40名ほど含まれています。

私はこの日本語教師という仕事をして今年で18年になります。毎年学生が入れ替わるので新鮮な気持ちで仕事ができます。また色々な驚きや発見があり非常に楽しいです。日本人の同じ年齢の学生に比べると非常にまじめでまた礼儀正しいというのが私の印象です。

私が日本語教師として学生と関わっていて今まで感じたことや驚いたことをここで少し紹介したいと思います。

- ・誕生日に白黒の水引?!
- ・数日前のことにお礼を言う日本人の習慣。
一方 その日のお礼はその日のうちに
- ・お風呂の栓、抜いてしまいました～
- ・親しい間柄での「ありがとう」という言葉
- ・食事のマナー 韓国、中国、日本を比較して
- ・相づちを打ちながら聞く? 打たないで聞く?
- ・割り勘の習慣
- ・お祝いのときには贈ってはいけないもの
～国が違えば習慣も違う～

というような、文化の違いは小さいことから大きいことまで色々あります。しかしながら私たち教師も学生達の国の文化を理解しようと努力し、また日本に留学に来た学生達も日本の習慣や日本人の考え方を理解しようと努力しています。

相手は相手の論理で生活しているのです。それを理解していないととんでもない人だという判断をしてしまいます。言葉を聞けばそれが外

国語であるとわかります。しかし文化や習慣は違うということはなかなかわかりません。そして自分たちの解釈で判断してしまうことがこわいのです。でもそれは知識です。いろいろな国の習慣を知っている、いろいろな言葉ができる、それもとても大切なことでしょう。でももっと大切なことがあります。

それはやさしい心、相手を思いやる心です。

たとえば道に迷った時に外国語のひとつもわからないおばあちゃんが目的地まで引っ張っていつてくれる。これも立派な異文化コミュニケーションです。

この米山奨学金のような奨学金制度も同じです。本当にお金で困っている学生を助けてやりたいという思いやりから生まれたものですね。

私の信念は日本に来る留学生や外国の人々に日本を好きになってもらいたい、そのために私にできることをしたいということです。私は留学生にとって初めて出会う日本人になるかもしれません。私が日本人の代表になってしまうかもしれません。ですから私なりにいい日本、いい日本語を留学生の皆さんに伝えていきたいと思いつつ、これからも教壇に立っていこうと思っています。

これからも学友の皆様の各界でのご活躍を願っております。栄えある記念誌に寄稿させていただけたこと、感謝しております。ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

受けるより与えるほうが幸福である

台湾暨南国際大学歴史学科 助教授

山岡 由佳

(1993～1996年度会長)



米山奨学会が20周年を迎え、誠に喜ばしくお祝い申し上げます。

20周年の年月を経て、今日まで続けて来られたのも、多くのロータリーアン、学友会の会員たちの努力の成果の賜るものです。感謝申し上げます。創立当初にご苦勞なされた当時のロータリーアンは今日は何人かしかこの世の中に居りませんが、しかし、その方々の精神は私の心

に深く刻まれております。いつまでも懐かしく思っています。

関西学友会会報はもう刊行なされてから22期になります。学友会の活動により、ロータリーの精神を認識し、それを学んで成長してきました。

聖書の言葉に「受けるより与えるほうが幸福である。」(使徒20:35)

ロータリーの奉仕の精神は与える側も受ける側ともに恵みを得られます。多くの感動的なことがらがこの20年間に記載されました。学友会の組織がまだ継続していることは、真に喜ばしいことです。

ますますご発展なさるようにお祈り申し上げます。

プロジェクトY-米山学友会(関西) 創立20周年にあたって

陳麗華

(奈良RC 2000~2004年会長)



(財)ロータリー米山記念奨学会の歴史やその創始者米山梅吉先生の生い立ち、財団結成の動機などについてはすでにご存知の通りで、今更ご紹介する必要もありません。このような壮大な計画と高い理念とした目標、それに日本のどの奨学制度よりも決め細やかな世話プログラムなどを考えますと、あらためて感動せずにはられません。テレビ番組名のまねだと言われそうですが、あえて「プロジェクトY」と名づけたと思っています。なぜなら、私を含め、この奨学金を受けてきたOB、OGたちの多くは今も誇りをもって、地球のあらゆる所で羽ばたいています。

私事で恐縮ですが、卒業後日本に残っている私は先輩に誘われて11年前からこの学友会(関西)に入会し、親睦を交わりながら、ささやかな奉仕活動に没頭してきました。思い返せば創の時、は奨学生であった私ですが、学友として10周年の創立シンポジウムに立ち合い、また、その10年後の20周年祝いにも携わることができたことに感無量です。ここで、特に一筆書かせていただきたいのですが、この学友会(関西)を創設された元学友の重光世洋先生(元大阪産業大学教授)は大変忙しい教職と研究生活の合間をぬって、万難をくり貫き、会をゼロからスタートをさせ、後継ぐ学友まで力を注がれたことです。しかし、先生のお口から一度も苦勞話をうかがったことがありませんでした。その後、許紫芬先生、清河雅孝先生が会長としてバトンタッチされて、それにロータリアンの支援と声援があったからこそ、この会の今日があります。先輩たちが不言実行

でこの「プロジェクトY」精神を実践してこられたお手本だと改めて敬意を表します。

この10年間において財団とRCの方針で本学友会の包括地域は関西4地区から徐々に減っていき、周辺に「姉妹」学友会が増えたものの、今は大阪2660地区となりました。メンバーは減りましたが、会員である学友たちの奉仕に対する思いは日を重ねて、益々深めていくばかりです。更に嬉しいことに現役の奨学生と接する機会も多くなり、会の年輪が一段増えました。私にとって一番印象に残っているのはやはり2004年関西で行われたRCの世界大会です。米山委員長たち、大会事務局の呼びかけで、多数の奨学生やOBたちが黒子に徹して、医療チームの通訳として、スケジュールを組み、待機していたことです。一同はこのまたとない盛大なイベントに参加できたことに喜びを感じたようです。

この「プロジェクトY」に育てられた学友はやがてプロジェクトの主人公になり、いたるところで「米山」の種を蒔いている使命を果たすことでしょうか。いや、すでに地道に実践している学友たちも数多くいると伺っています。また、本会も「プロジェクトY」を継承し、親睦の交流だけでなく、ここ数年は徐々に社会奉仕活動にも重点を置いている傾向が見られます。

このように毎年細長くも続いている会報を出版し、活動を続けているわが米山学友会(関西)の20周年を振り返って、実に喜ばしいことであり、また誇りをもっているのは私だけではないと思います！

文化の違いが生み出す 生活環境の違い

大阪外国語大学
其 其 格
(大阪西南RC)



日本に来てもう四年過ぎました。日本の自然環境を田舎と比べて見たら、まるで天地の差ほどでした。全国の至るところに森林が茂っていて、砂漠地方とは正反対ということです。内モンゴルでは、砂漠が広がっていて、緑地が日一日少なくなっていて、牧畜民たちの生活が苦しくなっています。緑と砂漠、原因は何でしょうか。日本の文化は農耕文化、モンゴル人の持つ文化は遊牧文化。農耕文化に薰陶された民族の環境意識、言い換えれば、緑に対する愛着が深いから今のような日本を作ったのでしょうか。中国も農耕文化ですが、どうしてそんな結果になったのでしょうか。決して遊牧民の移動生活のせいだと断定してはいけません。確かに遊牧民族であるモンゴル人は昔から「水草を追って」暮らしていましたが、その遊牧生活こそが自然を守るためでした。遊牧民の持つ文化は様々ですが、ここで服装文化だけを取り上げて話を続けたいと思います。

モンゴル服を普通デールと呼び、男性は5m、女性は4mの幅広い布とそれ以外にベルトに適用する幅が狭い、3~4mぐらいの布で作られて、色や着る方法、使い方にもいろいろな決まりと深い意味があります。

モンゴルデールの色は、男性のデールは青色が多くて、心が青空のように広い、という意味があり、女性のデールの多くは緑色で、大草原の緑色のようにいつも若く、奇麗であってほしいと言う意味があります。服が青色、緑色というのは、モンゴル民族の大自然に対する尊敬や愛着を意味しているのではないのでしょうか。

モンゴルデールの着る方法ですが、着るときには必ず真ん中のボタンから締めて、その後

上のボタンを閉め、最後に下のボタンを締めます。これは「一番大切なことから始めましょう！」という意味です。また、モンゴル服のベルトを強く締めるのには「一日頑張りましょう！」という意味が含まれています。

昔の遊牧民の生活では、モンゴルデールが沢山の役割を果たしていました。モンゴルデールは遊牧民族の移動生活に何よりも適したものです、といっても過言ではありません。袖の中に長いベルトを入れて、枕の代わりに使い、デールの背中の部分を敷き布団にして、前の見ごろを掛け布団にして、使っていたのです。また、モンゴル服の懐は物を沢山入れられる大きいカバンだったのです。このような事はまだまだ沢山ありますが、もう一つ重要な使い方といえば、モンゴルデールは恥を隠す役割を果たしています。モンゴル人の生活は移動生活ですし、目線がつかないぐらいの草原にトイレは作れないし、作る必要もありません。それで、モンゴルデールを着ればデールが長いことから他人に隠しやすくなるのです。今でも殆どの草原ではトイレがないので、内モンゴルの草原に行く予定の日本人の方は気をつけたほうが良いと思います。

遊牧民の持つ文化といえばまだまだたくさんあります。たとえば、乳製品に関する文化、相撲文化、馬の文化、宗教文化、狩猟文化など。現在内モンゴルでは伝統的な文化について、いろいろな催しを行うようになっていきますから、モンゴル人の生活や文化を生々しく体験することができます。馬に乗って、放牧して、天窓から夜の星空を見ながら、モンゴルでモンゴル人と一緒に暮らしてみませんか。皆さん、ようこそ大草原へ！

異文化

大阪大学基礎学部システム創成博士課程

ラヒミ・ダラバド・ロバベ

(吹田RC)



私が日本に来て以来数年、折に触れて友人達はここ日本に来た理由を尋ねる。私はいつも、日本はとても安全な国で、高い技術があり、新しい科学を大事にする風土があるから、などと説明している。しかし率直に言って、実は日本に来るまではこの国についてそれほどよく知っているというわけではなかった。未知の国として憧れを持っていた。イランの学生はよくアメリカやヨーロッパ諸国へ留学するが、日本にはそれほど行かない。ここへ来るのはある種の挑戦であり、量子計算という新しい研究分野に取り組むと決めたのもまたそうであった。そしてここへ来てから日本の国、文化などを知る機会に恵まれ、今では思い切って日本に来て良かったと思う。

現在私は量子計算という分野で研究している。これはこの世界でとても新しい分野である。一握りの先進国でしか、この分野で研究を進めることはできない。量子計算について話すにあつたでは、まず古典計算機に触れる必要がある。昨今生活のあらゆる場面で広く使われているコンピュータ技術であるが、おおよそ50年前に登場した。当時の発明者らは彼らの作った機械、まだ巨大で単純な幾つかの計算しかできなかった機械が、その後全ての技術に革新をもたらすとは考えもしなかった。そして、コンピュータはデータ解析能力を飛躍的に高めていくと同時に、その基盤面積は縮小していった。この傾向はいつまで続くのだろうか。この計算機に根ざしているのは古典物理学である。古典物理学の下では幾つかの厳しい制約があることが知られており、計算機がある一定の限度を超えてより小さく、より速くなることは不可能である。これは、進歩の終わりが近いことを意味しており、実際それは直近の10年程度に迫っているのである。

それでもこれはさほど深刻にとらえることでもない。科学者達はこの問題に真剣に取り組んでおり、解決方法はほぼ見つかっている。それが量子計算機であり、古典的計算よりも非常に小さくなおかつ速いと言われている。優れた性能の理由は、量子計算機が量子物理学に基づいているからである。量子物理学は微小な粒子の物理を記述する物理学である。

量子計算の学問は大きく2つに分けられる。一つはこの新しい計算機をどう活用するかを調べる情報理論である。もう一つは量子計算機を作るための物理的理論と実験である。私の所属する研究グループでは前者の研究を少しと、後者の研究を主に行ってきた。

さて、最初の視点に戻りたい。日本は新事業を重んじる優れた国の一つである。ここ日本では、包括的な実験的研究を行うことが可能である。遅かれ速かれ量子計算機は実現されるであろう。しかし、重要なことはこの分野で先頭を目指して速く走ることである。然るべき時が来れば、現在使われている計算機は改善が効かなくなり、そのような古典計算機に斜陽が射す時代に備えて、完全な量子計算機を準備しておかねばならない。

私は日本に来て当初、自分の研究がとても楽しくて、時の経過には無頓着であった。ただ、研究にだけ専念したくても、そうする時間がとれないのは辛い。しかし、私は今のところ他の心配をせずに好きな研究を続けることができている。これもひとえにロータリー米山記念奨学会の皆様のご支援のおかげである。奨学金を頂ける親切に甘えさせて頂き、研究に真摯に取り組んでいる。これからも、ご期待に添えるように勉学と研究に勉めたい。

生きる楽しみ

関西医科大学大学院医学研究科博士課程（後期）

張 南雁

（守口イブニングRC）



人生は簡単なことではありません。私たちは大人になったら、これをわかるようになりまして。

人がどのように生活を思うかはどのような生活を送るかを決めています。生活が辛いことだと思えば、暗い生活を送ります。生活が楽しいことだと思えば、生活に喜びが溢れます。

生活を楽しめていない人の多くは、ただなんとなく生活していて、生活の楽しみに気づいていないのではないのでしょうか。生活の楽しみは実は私たちの身近にあります。美味しい料理を食べるとか、人を感動させる映画を見るとか、友達と面白い話しをするとか、休みの時に家族と一緒にハイキングに行ったり、ピクニックに行ったりするとか、生活の楽しみはごく普通なことにあります。

どうやって、生活を楽しむことができますか？まず“生活を楽しもう”という意識を持たなければなりません。この意識さえあったら、生活を楽しむ準備もできています。次は、自分なりの楽しみを見つけることです。すごい事や立派な事である必要がありません。これが自分の楽しみだと思えば、何でもいいです。「やりたい

ことをやる」のがいちばんかもしれません。やりたいことなら、楽しんでやれるでしょう。それを見つけた後、それなりの工夫や努力も必要です。ちょっと工夫をすることで、自分の楽しみをより楽しめるとは思いますが、もともとは楽しむことではなくても、工夫することによって、楽しめるようになることも結構あるのではないのでしょうか？また、何かを本当に楽しめるようになるためには、そのための努力を続ける必要がある事もあります。その事をよく知る、研究する、上達する、手間をかける……。知れば知るほど好きになる、ということがあるでしょう。また、生活を楽しむためには、先の事を「楽しみにする」ことも大事です。明日、何が起こりますか？誰と出会いますか？……。その事を楽しむのを思うだけでも、ワクワクしたり、「いいなあ」と思えたり、いい気分になれます。

だから、生活を楽しむのは難しいことではありません。大事な一回だけの人生をロボットのよう過ぎたら、すごく残念ですから、元気を出して、生きる楽しみを味わいながら、幸せに生きましょう。

関西弁

関西大学大学院文学研究科国文学専攻前期課程

陳 贇

（吹田西RC）



「あさち原 野分にあへる 露よりも」と言うように、11月にもなると、朝晩の気温はぐっと下がり、山間部ではまだ完全には枯れ切っていない野草に薄い霜が降りかかる。あ〜鍋が恋しくなるシーズンになってきたなァ。テレビでは

そろそろ、中村玉緒さんがスーパーで楽しげに「マロニーちゃん〜、どこにある〜♪」と歌いながら糸薔薇を探しまわるCMが流れはじめることであろう。そう、そのマロニーちゃんのことである。関西で暮らしていると、しょっちゅう

「なんとかちゃん、なんとかさん」の呼び方を耳にする。電車に乗っていたら、「吉田さん、あめちゃん要らん？」とそれとなく仲間に飴を勧めるおばちゃんが必ず登場する。学食で唐揚げを頬張っていたら、先輩に「そんなフライものばかりじゃ、だめよ。時々お豆さんをとったほうが体にいいんよ。」と注意されたこともある。しまいには、先生に「今度はデータを打ち込んであるフロッピーさんも持って来なさい」と言われる。これまでの関西経験では、この「ちゃん」あるいは「さん」というのは、人間以外の場合食べ物だけにつけるのかと漠然と思っていたら、とんでもなかった。なんと、超近代文明を代表するコンピュータ関連の名詞にも見事についていたのではないか。ここまできると、もはや関西方言における「ちゃん」と「さん」の驚異的な生産力に感服するしかない。

日本語では、中国語や英語などと違って、会社名の後に「さん」と付く習慣があることは大学在学中に日本人の先生に教わったが、さすが「法人」なんて難しい言葉を作り出した国だなどその時

つくづく思った記憶がある。そして、アルバイト先で、ほかの通訳が「ソニーさん」のことを「索尼先生」と訳しているところを聞いて、自分のことを欄にあげて失笑してしまったという不謹慎な経験もある。会社名に「さん」とつけるのは、「法人」の「人」がかろうじてかかわっているというならば、食品名や一般事物の後にも「さん」或いは「ちゃん」をつけて、あたかも人格を持っているかのような扱い方はやはり関西特有のものではないかと思われる。

「関西弁はうるさくて汚い」というのは、日本国内においてはほぼ定説のようにになっているのだが、生命を持たないものに人格を与えて呼ぶところだけを取ってみても、ものをただのものとしてではなく、生命を持つもの、極端に言えば人間自身と同等なレベルで扱っている関西人の謙虚で温かい気持ちがそこに表れているように思う。関西弁に染まってしまうことをなんとなく恐れていた私からも、その関西色が滲み出る日はそう遠くないのであろう。

地球の緑を増やしましょう

大阪摂南大学修士課程

ザラガムジ

(大阪樟葉RC)



日本を知りたいという目的で日本にやってきた私にとって初めて一番印象深いのは日本の緑でした。至るところに森林が茂っていて、緑の楽園とっていいだろう。日本人は大昔から森林を保護する意識を持ち、緑化活動を確実にやって来たらしい。第二次世界大戦争を経て森林がほとんど破壊されたがそれから半世紀ごろで世界中の森林面積がもっとも高い国の列に入りました。これだけでも日本人の森林、いわば環境に対する認識や努力の強さを解かると思います。

中国は今経済発展で世界中の注目を集めていますが、同時に環境悪化の面でも人々の注目を集めているのです。中国の砂漠面積が67万平方キロメートルを超え、世界でサハラ砂漠に次いで第二番目となっています。国内では内モンゴ

ル自治区の砂漠面積が新疆に次いで二番目となっています。総面積が23万平方メートルを超えています、その面積がますます増加しているのです。

世界中の乾燥地帯が全陸地の40%を占め、そこで世界中の人々の20%が暮らしています。現在、砂漠化が毎年6万平方キロメートルになり、言いかえれば、毎年全陸地が0.1%の速さで砂漠化になっている計算になるのです。原因は地方によって降雨量の不安定、砂嵐などの自然災害と森林伐採や開墾しすぎなどの人為的な要素が挙げられます。内モンゴル自治区の西北部にアラシャ盟が位置し、ほとんど砂漠化になっています。毎年2月から5、6月にかけて砂嵐が起き、農民や牧畜民たちがひどい災害を受けています。砂漠化がどんどん

どん進んでくると牧畜民や農民たちがどんどん逃げ出す悪循環が続いているところ、どうしても生まれ育った故郷を離れたくないという気持ちを抱いて、都市へ移住する命令に従わず、ほかのところへ移住した人も数少なくないです。

私の故郷オルドスは内モンゴル自治区の西南部のオルドス高原に位置しています。オルドス地方も長い間自然災害や人為的な行動で自然が破壊され、現在も砂漠化が真剣な問題になっています。オルドスは内モンゴル自治区西部のテングリ砂漠、ウランブハ砂漠と黄土高原の間にあり、毎年砂嵐の影響を受けています。砂嵐の影響を受けている地域が年々広がっていて、中国はもちろん、韓国、日本、遠く離れたアメリカのハワイまで砂嵐の影響を受けているのです。

われわれの存在する地球はひとつしかない。もし、地球上の陸地の至るところまでに砂漠が広がってしまったらどうなりますか。人口は毎年増えています。人間の暮らしに適する陸地の面積が毎年減っています、それとも毎年0.1%の速さで砂漠化になっています。見た目ではほんのわずかだと思えるかもしれませんが、それは驚くべき数字だと考えればよいと思います。先ほ

ど述べた内モンゴル自治区アラッシャ盟の砂漠地方が20年前は森林が茂って、水草肥沃なところで、鳥類や獣たちの楽園だったが、たった20年間で砂漠化になり、人間が追い出されるほど真剣になったのです。砂漠化がある限界を超えると再び抑えることができなくなると専門者が訴えています。

環境を守ること、地球の緑を守るとは我々の責任であるはずですが、誰かに責任を押し詰めるのは賢明な考え方ではない。

人々の環境意識を深めることはもっとも大事なことだと思います。農民や牧畜民たちは自分たちの暮らす環境がだんだん悪化していくのを見ていても、それをどうしたら防げるのか、が分からないことは事実です。また、自分の所有する牧草地を守るために懸命に植林活動をしている人は数少なくいるけれども、全体的な雰囲気になっておらず、全体的な悪化の趨勢を防げないのです。だから、教育の力で国民たちの環境意識を呼び覚まし、環境教育と植林活動を具えて確実に行動に移せば、環境を守ることができるのではないかと思います。

私の国際親善

大阪産業大学大学院経済学研究科博士後期課程

趙 柏飛

(大東中央RC)



私は、米山奨学生になって2年目になります。私は奨学生になってから、大東中央ロータリークラブのカウンセラーと親密な関係を作ることができました。自分の研究分野と思想等を例会で発表することで、クラブとの関係が強まりました。そのような経緯もあって、今年、大東中央ロータリークラブと台湾のロータリークラブとの書信等の翻訳などを手伝うことになりました。このようなクラブ同士の活動を助けることに貢献できることは、私にとって貴重な経験となるばかりでなく、両クラブ間で、一層の相互理解及び友好を図れるように私は努力しています。もちろん台湾と日本のロータリークラブのやり

取りは、同じクラブ同士であり、大変友好的なものです。来日によってより親密な関係を築く事が可能となります。その時私は、通訳だけでなく、大東中央ロータリークラブと台湾クラブの間の交流が一層深くなり、両クラブの発展に貢献するよう頑張ります。

私の日本での滞在期間は13年目を向かえ、その間に中国人の留学生に勉強や生活上のアドバイスをしたり、かつての中国残留孤児への支援活動に長く関わり、また逆に、数多くの日本の方からの支援を受け、様々なことを学びました。そのような経験を踏まえ、私の将来の進路としては、米山奨学生となって学んだ真実・平和・

友好などのクラブの基本理念を活かす場として、日本企業と中国企業との円滑な取引に関する会社を立ち上げたいと考えています。

私が見聞きするだけでも、日本企業と中国企業との取引には、多くのトラブルがあるようです。そのようなトラブルの多くが文化や習慣の違いであったりします。十分な相互理解が進まなければお互いの考えが分からず、互いに疑心暗鬼にとらわれます。私はそのような問題に対して、

両方の長所そして注意が必要なものに対して中立の立場で活動したいと考えています。

現実に、私は日本の半導体関連会社の中国への販売委託の仕事を引き受け、中国の会社と日本の会社の間で、両者の円滑な取引のために活動しています。まだその活動は小さく、始まったばかりですが、私の本当の国際親善はこれからだと考えています。

社会奉仕活動報告

*第7回 おやこDEうんどう会

2005年11月06日(日) 8:30~18:30 家庭養護促進協会主催の運動会で学友会(関西)としてお手伝いをさせていただきました。今年のおやこDEうんどう会は、朝から冷たい秋雨の中、体育館での開催となりました。たくさんの親子が参加し、子供達は元気に走り回り、大人たちも童心にかえて楽しい一日をすごしました。家庭養護促進協会の方達やボランティアの皆さん手作りの運動会で、お手伝いした私達も元気をいっぱいもらってきました。

*2006年度今宮戎での福飴売りの手伝い

2006年1月9日(月、祝)~11日(水)三日間この3年間、学友会(関西)として、家庭養護促進協会の飴売りの手伝いをさせてきました。今年も晴れて比較的暖かな3日間でしたがそれでも、ダウンジャケット、シャカパン、カイロと防寒対策で臨みました。最初は照れながらも福飴は如何ですかと小さい声でしたが、だんだん慣れてきて、恥ずかしさも消え、ボランティアの皆さんと同じく元気な声で呼びかけができ売りに徹しました。多くの方は毎日新聞で活動を見て、買いに来てくださり、本当に心の温まるご協力で私たちまで感動しました。

なお、この貴重な収益金は家庭養護促進協会に

より活用されています。

(註) 家庭養護促進協会 <http://home.inet-osaka.or.jp/~fureai/kyoukai.htm> からの抜粋社団法人家庭養護促進協会大阪事務所は、毎日新聞大阪本社社会部、大阪府、大阪市の各児童相談所の協力を得て、昭和39年から大阪で「愛の手運動」を続けてきた団体で、現在日本でただ一つの里親さがしのための民間の社会福祉団体(厚生省認可)です。大阪では、この運動を通して、今まで1000人以上の子ども達が全国各地の里親家庭にひきとられ、元気に成長しています。

愛の手運動とは、親に育てられない子ども達に里親家庭をさがす運動です。大阪市、府下の子ども達を毎週1回、1人、毎日新聞の地方版「あなたの愛の手を」欄に掲載しています。

親に育てられない子ども達が一見平和な現代社会にあっても、子どもをとりまく環境は、決して望ましいものではありません。親の家出、離婚、病気などの事情で、親に育てられない子ども達は大阪だけでも3000人いて、乳児院や児童養護施設で生活しています。

2005年度活動写真



2005年度新規米山奨学生歓迎会
及び学友会創立20周年



2005年度秋季懇親会



役員会にて

2005年度米山奨学生学友会（関西）役員名簿

(2005. 07. 01～2006. 06. 30)

役職名	名前	元世話RC	勤務先・役職	E-mail
会長代理 兼幹事長	林 小 微	和歌山 東	ユニバーサル T.C. 代表	info@ri2660k.memopad.org
副会長	塔 娜	岡山	大阪府立大学 客員研究員	tana5@vet.osakafu-u.ac.jp
	潘 振 興	奈良大 宮	(株) トイズ 代表取締役社長	yoneyama0517@yahoo.co.jp
相談役	重光 世洋	大阪	大阪産業大学 工学部名誉教授	
相談役	清河 雅孝	京都東	京都産業大学法学部教授 清河法律事務所	bengoshi-km@nifty.com
相談役	陳 麗 華	奈良	大阪産業大学 教養部非常勤講師	chinleika1983@yahoo.co.jp
顧問	林 錫 璋	名古屋 西	桃山学院大学 法学部教授('05.3退官予定)	kenji@andrew.ac.jp
会計監査	荘園 福松	神戸	税理士	
学 術	朴 日	大阪東 淀	大阪大学大学院電気工学専攻熊谷研究室 松下半導体社 営業情報部	piaoro@hotmail.com
会 計	李 麗 愈	奈良	中国語教師	anpeigai@yahoo.co.jp
書 記	王 蔚	山口	東和	xmrxt434@ybb.ne.jp
	褚 斌 兵	横浜田 園	ダイキン工業株式会社 グローバル戦略本部 企画部 法務グループ	chu.binbing@daikin.co.jp
会 報	潘 振 興	奈良大 宮	(株) トイズ 代表取締役社長	yoneyama0517@yahoo.co.jp
	権 貴 玉	園部	アトリエ四季 日本画、画家	yamanaka-know@k4.fion.ne.jp
庶 務	祝 炳 俏	武蔵国 分寺	小林製薬(株) 研究開発	zhuhe228@hotmail.cim
国際交流	豊田 秋雄	大阪西 南	豊田矯正・歯科医院 院長	akio@toyota-shikakyosei.com
親 睦	李 倩	大東中 央	東光商事(株) 国際三部	anneleeqian@hotmail.com
旧年度分 HP管理	張 鑫 隆	高槻	逢甲大学財経法律研究所助教授	diunjp@yahoo.co.jp
新年度分 HP管理	林 小 微	和歌山 東	ユニバーサル T.C. 代表	info@ri2660k.memopad.org

*学友会（関西）ホームページURL

<http://ri2660k.memopad.org>

*在住外国人のLiving Information URL

<http://popeye.ih-osaka.or.jp/enjoy/jp/index.html>

2005年度会計収支決算報告書

自2004年7月1日
至2005年6月30日

収入の部

科目	金額	備考
前年度繰越金	¥1,563,559	
運営補助金	¥0	
援助交付金	¥250,000	2660地区
特別補助金	¥168,000	2660地区
会報補助金	¥87,885	米山記念奨学会 会報21号
会費収入	¥53,000	
總會収入	¥228,000	
總會補助金	¥57,000	米山記念奨学会
秋懇親会収入	¥56,000	
秋懇親会補助金	¥39,000	米山記念奨学会
広告費収入	¥70,000	
利息収入	¥11	
特別収入	¥70,000	寄付金
現金収入	¥600	
総計	¥2,643,055	

支出の部

科目	金額	備考
運営費	¥147,730	
事務用品費	¥22,696	
交通費	¥64,220	
会報作成費	¥175,770	
寄付金支出	¥30,000	
總會費用	¥489,287	
秋懇親会費用	¥140,756	りそな銀行平野支店：¥1,438,916
通信費	¥106,185	現金（手元有高）：¥25,375
雑費	¥2,120	
次年度への繰越金	¥1,464,291	
総計	¥2,643,055	

以上ご報告申し上げます。

2005年7月16日

会計 李麗俞

会計監査報告

会計監査の結果、収支決算報告は適正と認めます。

2005年7月16日

会計監査 莊園福松 印

2005年度会計予算（案）

自2005年7月1日
至2006年6月30日

収入の部

科目	金額	備考
前年度繰越金	¥1,464,291	
援助交付金	¥250,000	2660地区
会報補助金	¥100,000	米山記念奨学会
広告費収入	¥70,000	
会費収入	¥50,000	
総会参加費	¥200,000	
総会補助金	¥60,000	米山記念奨学会
秋懇親会参加費	¥50,000	
秋懇親会補助金	¥40,000	米山記念奨学会
総計	¥2,284,291	

支出の部

科目	金額	備考
事務用品費	¥30,000	
運営費	¥150,000	
交通費	¥70,000	
会報作成費	¥200,000	
総会費用	¥500,000	
秋懇親会費用	¥150,000	
通信費	¥100,000	
雑費	¥10,000	
寄付金支出	¥30,000	社会法人家庭養護促進協会¥20,000; 日本赤十字新潟県支部¥10,000
次年度への繰越金	¥1,044,291	
総計	¥2,284,291	

以上ご報告申し上げます。
2005年7月16日

会計 李麗俞

*** 個人特別寄付に感謝いたします ***

2005年に熊澤忠躬様、山本和雄様、北川哲様、永江溥様、陳麗華様、王蔚様

2005年度會員名簿

2006年1月現在

重光 世洋	000066	シレクスタ・ティ・イヌ・ブラサト	003754	ウエンタ ^ウ ・コン・スミトラ・クムテ ^イ ・ニ	007381
中山 勝富	000168	田中 明	003843	金 信明	007395
林 錫璋	000204	文 錫中	004084	崔 美淑	007407
香島 明雄	000236	田中 敏如	004085	熊 富	007440
曾根 憲昭	000304	王 惠津	004089	陳 於華	007673
郭 顯榮	000372	カ ^オ ・ハンリ ^ー ・アツク ^レ ス	004110	牟 宇	007677
郭 許瑤琴	000465	譚 珊珊	003751	東 林華	007693
徳山 卓也	000497	金 玉善	004634	塔 娜	007697
清河 雅孝	000577	桂 小蘭	004707	金 昌勲	007953
豊田 秋雄	000590	洪 萬杓	004817	王 宏	008168
林 宏作	000596	段 煥祥	004951	曹 茗	008229
東 正伯	000651	孫 寶徽	004992	賀 真	008234
宮崎 ちな	000734	李 文英	005005	高 叢笑	008254
魏 栢良	000972	崔 銀珠	005097	ゲ ^ナ ワン [・] ニティ [・] スジ ^ヨ	008255
莊園 福松	000975	伊力亜司 比拉勒	005174	張 慶熙	008258
南 俊彦	001135	林 勲	005177	金 華榮	008262
藤方 彰二	001139	牧野 曉輝	005183	李 瑞竣	008267
武田 維明	001140	蘇 燕	005187	オ ^コ ー ^ル ・オ ^カ	008270
森重 映蘭	001265	康 薔薇	005487	朴 貞子	008486
張 壁東	001266	張 起權	005496	韓 英	008934
鍾 雲海	001279	周 人英	005497	金 亜文	008935
大塚 賢龍	001409	許 点淑	005610	劉 綺	008937
李 惠玲	001538	傅 傑	005669	朴 紀	008941
黄 晨昌	001704	国本 徐佳	005703	趙 爽	008954
林 小微	001718	頼 愛華	006060	韓 銅珍	008959
李 麗愈	001868	張 文	006235	金 明珉	008966
謝 一忠	001874	陳 婉萍	006335	林 志煥	008969
松井 仁淑	001884	李 燦	006338	趙 貞和	009130
モ ^タ ト [・] ・エ ^ク サ [・] ・ミ ^ト	001906	樂 萌	006359	韓 成一	009163
李 鴻儒	002069	リ ^ジ ヤ ^ル ・私 [・] ハ [・] ハ ^ト ・ウ ^ル	006522	金 藝蘭	009164
早川 由美	002077	蔡 世蓉	006697	聶 智穎	009605
福山 嘉一	002236	サ ^ハ ブ [・] ラ ^フ ・ハ ^ミ ツ ^ト ・モ ^ハ メ ^ツ ト	006706	ファン [・] ティ [・] ミン [・] ニア	009638
高樹 亮一	002467	潘 振興	006722	崔 雲澤	009649
權 貴玉	002475	沈 美姬	006734	金 世姬	009654
陳 麗華	002739	李 虎	006340	劉 慶	009659
何 玉翠	002741	李 玉軍	006341	沈 亜琴	009667
蔡 麗敏	002766	安 時亨	006739	楊 紅雨	009673
施 學昌	002786	ブ ^ス ト ^ン ・ル ^イ ・ヘ ^ン リ [・] ク ^ワ ミ	006740	李 俊輝	009766
梁 官洙	002788	陳 章祺	006831	蘇 黎	009692
姜 兌欣	002791	李 貞	006862	于 永梅	009797
王 充志	002796	邱 迅	006967	王 建	009838
蔡 秀娟	003059	江 南	006972	謝 立群	009841
ウ ^ル ク [・] テ ^コ	003383	劉 必進	006974	洪 志榮	010064
ザ ^ヤ ニ [・] モ ^ハ メ ^ツ ト [・] ヘ ^テ イ	003400	李 鐵麗	007001	褚 斌兵	010110
李 暎一	003468	ジ ^ヤ ル ^ハ ・ツ ^ト ・ウ ^ホ ン ^ヤ ト	007358	祝 炳俏	010222
王 冬蘭	003507	陳 怡瑾	007364	胡 舸	010278

金 樹正	010282	孫 忠男	011004	現役奨学生	
李 弘鵬	010283	ワグル・サントシュ	011005	玄 聖姫	OA0534
王 淑儀	010290	吳 非	011006	魏 仙芳	OA0535
張 勇	010295	丁 旭	011013	廖 修雅	OA0536
王 劍鋒	010323	朴 賢淑	011019	呂 鉉	OA0537
アン・シット	010332	黄 靖薫	011184	王 杭祥	OA0538
黄 濟華	010340	白 雨田	011672	ムハマド・リザル	OA0539
権 智重	010344	メッシュ・ルベール	011673	ラミ・ダラハト・ロハハ	OA0540
朴 永哲	010349	李 哲雨	011674	リ・エリ・シモ	OA0541
スウ・チュウ・アネ・ニコレタ	010369	崔 海龍	011675	陳 梅隠	OA0542
張 張	010371	張 崢峻	011676	其 其格	OA0543
王 蔚	010454	林 正珉	011677	張 国楽	OA0544
高 穎	010662	李 炫	011678	鄭 沼混	OA0545
ヒラチャン・ヌ	010935	金 保叔	011679	張 華	OA0546
蕭 然香	010936	李 承美	011680	サフォーノフ・アレクサンドル	OA0547
李 垠庚	010942	張 睿	011681	黄 于珊	OA0548
梅 樺	010946	秦 爽	011683	ト・クアン・ロン	OA0549
田 軍	010951	チャンシリ・ソムチャイ	011684	李 落落	OA0550
許 艶男	010955	金 錦艶	011685	張 林	OA0551
張 凱鈞	010959	ウイリョノ・アントリー	011686	黄 雪丹	OA0552
任 燕	010350	ユルト・カム・ファティ	011687	金 庭	OA0553
陳 旻瑜	010981	余 嫻嫻	011688	張 南雁	OA0554
陳 贊	010982	候 秋恬	011689	扎拉嘎木吉	OA0555
ガル・イナ	010985	謝 安琪	011692	黄 欽	OA0556
黄 霆	010986	金 銀周	011695	林 杉	OB0557
黄 宇芳	010987	レーティ・サーラム	011696	許 成哲	OB0558
金 錫華	010988	秦 剛	011697	李 宝炫	OB0559
郭 修静	010990	万 軍民	011698	金 漢九	OB0560
李 周	010991	楊 涛	011699	申 春野	OB0561
李 倩	010992	張 弘	011700	胡 絢静	OB0562
林 嵐娟	010993	韓 在熙	011749	李 瑞芳	OB0563
柳 偉達	010994	裴 寅兌	011882	康 碩	OB0564
ギム・ヘト・ハー	010996	惠 浩星	011883	カルジヤ	OB0565
ファン・ロアン・ティ・ミー	010999	李 曉博	011884	李 強	OB0566
朴 日	011000	金 吉中	011909	太 武原	OB0567
リザ・ムヒダ	011001			宋 宇鉉	OC0778
阮 翔	011002			趙 柏飛	OC0779
徐 賢娥	011003			尹 英和	OC0780

相談コーナー

学生会は留学生のために相談コーナーを設けました。さしあたり、次のような分野と担当者を決めました。ご利用下さい。

法律関係：清河雅孝 〒542-0082 大阪市中央区島之内1-21-22 共通ビル905号
 税理関係：莊園福松 〒530-0014 大阪市北区鶴野町4番コープ野村梅田A-216号
 マーケティング関係：吳賢龍 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北1-6-20

2005年度活動報告

年間活動はホームページに詳しく掲載しております。
 ホームページアドレス：http://ri2660k.memopad.org/y_004.htm

米山奨学生学友会（関西） 2006年度会報第23号広告のお願い

皆様にはご健勝の事と存じ上げます。平素何かと当学友会に対して、ご支援とご理解を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、ご存知のように毎年発行しております会報ですが、従来すべて経費を学友会で賄っておりました。2年前19号からは各界でご活躍のOBに会報内での宣伝・広告という形で経費の一部協賛をお願いしていたところ、快くご協力くださって、ありがとうございました。今年も同じく方向に進んでいこうと考えております。是非、よろしく願いいたします。

敬 具

記

- 1) 広告サイズ（一口）：右ページの広告欄をご覧ください。
- 2) 協賛金：1万円
- 3) 発行部数：1,000部前後
既に広告版下をお持ちの方、お申し付け下さい。若しくは広告内容はお任せ下さい。
- 4) 発行予定：2007年2月中旬
- 5) 配送先：(財)米山奨学生学友会、各米山奨学生学友会、
地区ガバナー事務所、世話クラブ、当学友会OB、奨学生など
- 6) 振込先：りそな銀行平野支店 普通6968689
ロータリー米山奨学生学友会（関西）
代表 イノウエ コエミ

ロータリー米山奨学生学友会(関西)
会長 林 小微
〒546-0032 大阪市東住吉区東田辺3-14-10
Tel:06-6607-6494 Fax:06-6607-6409
E-mail: info@ri2660k.memopad.org(林 小微)

会員の消息

*ネメシュ・ノルベルトさんは2005.06.10にお嬢さんが誕生し、素敵なパパになりました。

*簡月真さん(元世話クラブ:守口RC)今現在国立東華大学民族語言與伝播学系で助理教授をされています。

*Lim Chin Chouさんは転勤で05年5月に奈良から滋賀県の彦根市に引越しました。

*李賢珠さんをご主人の異動に伴い、2004年10月に青森県青森市に引越されました。青森は雪で有名なところですが、特に今年は大雪だそうで、雪かき苦戦奮闘中です。近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りくださいとのこと。

*朴銀姫さんは今現在大阪大学で各員研究員として在籍し、研究活動と就職活動をされています。

*Carl Bastian.さんは2004年に群馬県に引越されました。

*黄嘉琪さん(元大阪住吉クラブ)は2004年に台湾へ転職されました。

*バスティアン、カールさんは2005年4月に群馬県サエラ・リゾート尾瀬 に就職し、サービスマネージャとしてご活躍中。

*ポダルコ、ピョートル・E.さんは2005年6月東京へ現在青山学院大学にて教鞭をとっています。

*梁榮友牧師は2005年6月に在日大韓基督教岡山教会へ転勤されました。

*林翰佳さんは2005年6月に帰国し、現在台湾大学生化科学所にお勤めされています。

*楮斌兵さんは2005年10月に次男が誕生し、おめでとうございます。

編集後記

編集委員 林 小微、陳 麗華
権 貴玉、潘 振興

あっという間に一年が過ぎました。また会報編集の時期がやってきました。この一年を振り返ると、いろいろな事が起きました。選挙や、耐震問題の建築マンション。そして、つい先週起こりましたライブドア堀江氏の問題などなど。一体、日本はこれからどうなるかと思う毎日です。

今年米山奨学生奨学会(関西)創立20周年でありまして、去年の総会は特別に異文化コミュニケーションをテーマにし、講演を行いました。そして、今回総会にお招きしました磯田先生はロータリーアンでもあり、私の日本語学校の先生でもあります。

今思えば、来日当時に左も右も分からない私は何を話しかけられても「どうも」、「すみません」しか返事しようがなかったのですが、日本語学校の先生達をご指導により、日本語はもろんの事、日本文化、習慣も理解でき、日本語

試験や、大学受験など順調にこなしました。ロータリークラブにご縁がありまして、奨学金まで頂きました。奨学金をもらうのは金銭的な面だけではなく、精神的な面の支えもたくさん頂きました。

「住めば都」という日本語の諺があります。大きい環境は自分のために、変えてくれませんが、自分が環境に適するために、変える事ができると思います。もちろん、よい変え方によって、自分は成長していきます。そのうち、この環境にいる自分を探し出し、そして、新しい道が開きます。それこそ、生きる楽しみではないかと思えます。

来日14年ですが、私にとって、まだまだ修行が足りないですね。

会報編集 潘 振興

清河法律事務所

弁護士・海事補佐人 清河 雅孝

お気軽にご相談下さい

業務内容：1. 一般の民商事、刑事・仲裁事件のほか、海事（備船契約・船舶衝突・船舶差押・海上保険等）
2. 米国・中国・台湾貿易、国際取引、英語・中国語法律文章作成・翻訳、入館ジム、国際人材派遣業務の契約

米国カリフォルニア州弁護士 キャンデル・キャリン
台湾弁護士 高 志明
中国弁護士 霍 麗麗
パラリーガル 二反田 周平・許淑芬

〒542-0082 大阪市中央区島之内1-21-22 共通ビル905号
Tel:06-4963-7877/06-4963-7879 Fax:06-6241-6076
E-mail: bengoshi-km@nifty.com

元世話クラブ：京都東RC

株式会社 日中青年旅行社

代表取締役 社長 張壁東

本社 〒543-0056 大阪市天王寺区堀越町16-7
Tel:06-6779-5636 Fax:06-6779-5803
本町支店 〒541-0053 大阪市中央区本町3-5-5
カネセビル5F
Tel:06-6267-0503 Fax:06-6267-0506

名古屋営業所 福岡営業所 神戸営業所 上海営業所

元世話クラブ：大阪住吉RC

有限会社 藤岡運送

代表取締役 藤岡 寧発

本社 〒556-0014 大阪市浪速区大国1-8-4
Tel:06-6568-0300
西宮営業所 〒541-0053 西宮市西宮浜2-35-1
Tel:0798-26-3234 Fax:0798-26-3220
摩耶倉庫 〒657-0854 神戸市灘区摩耶埠頭2-4
Tel:078-805-0355 Fax:078-805-0356

三井住友海上火災保険株式会社代理店 トクセイ
大阪長堀橋ライオンズクラブ 副会長

元世話クラブ：姫路RC

荘園福松税理士事務所

税理士 荘園 福松

〒530-0014 大阪市北区鶴野町4番
コープ野村梅田A-216
Tel:06-6375-1070 Fax:06-6375-1049

元世話クラブ：神戸RC

豊田 矯正・歯科医院

院長 張(豊田)秋雄 / 矯正博士 豊田 弘政

診療時間 AM 9:30~PM 12:30
PM 2:30~PM 7:00
但し木曜・土曜はPM5:00まで

休診日 日、祝日
〒532-0024 大阪市淀川区十三本町1-4-2-2F
Tel:06-6308-5177 Fax:06-6308-5188
フリーダイヤル：0120-38-4618(サカサ シロハ)
E-mail: info@toyota-shikakyosei.com
http://www.toyota-shikakyosei.com/

元世話クラブ：大阪西南RC

大塚貿易会社 / 神崎川薬局

代表取締役 大塚 賢龍
薬剤師 大塚 久美子

〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北1-6-20
Tel:06-6308-4070 Fax:06-6300-5271

元世話クラブ：堺東RC

高樹医院 (内科・消化器科)

院長 高樹 亮一

〒639-1007 奈良県大和郡山市南郡山町226-2
Tel/Fax:0743-53-0608

受付時間：
平日 午前 9:00~12:00 午後 4:00~7:00
火・土曜日 午前 9:00~12:00
休診日 日曜、祝日

元世話クラブ：京都RC